

るくおん通信

発行日： 1990年12月15日

No. 30号

発行者： 盲人情報文化センター録音製作

表の読み方例

図・表は様々なものがあります。読み方の順序は、普通、「〇〇ページ、図(表)、〇〇〇。」と言った後に、説明文があれば説明文を先に読み、「説明」と言ってから図(表)を読んていきますが、場合によってはこの順序では分かりにくいことがあります。例えば説明文が、例題のような場合は、図表の説明を先にして、説明文は「以下、説明文」と言ってから説明文を読むような配慮も必要です。

<表例>

【表2-2】二つの算定法による個体数の比較

		ねぐら発ち算定法	ねぐら入り算定法
昭和57～58年越冬期	合計	7,046	5,210
	ナベヅル/マナヅル	6,096/950	4,210/1,000
昭和58～59年越冬期	合計	8,132	6,680
	ナベヅル/マナヅル	7,036/1,096	5,300/1,380

●表をみてわかるとおり、二冬ともねぐら発ち算定法の方が多く、ねぐら入り算定法の値に対しそれぞれ35%増、22%増となっている。逆にマナヅル数はねぐら発ち算定法の方が少なく、それぞれ5%減、21%減となっている。マナヅルは1,000羽余りほどであるから100～200羽の計数誤れでも、全体に対する比置は少なくない。また、ナベヅル数は、総数からマナヅルその他のツルの合計を差し引いて求めるから、総数およびマナヅル数の計数が正確でなければならない。

<説明例>

「〇〇ページ、表2-2、二つの算定法による個体数の比較、説明、表は、縦の項目として昭和57～58年の越冬期と58～59年の越冬期があり、それぞれナベヅル、マナヅル、その合計横の項目はねぐら発ち算定法とねぐら入り算定法となっています。以下、順に読みます。昭和57～58年越冬期、ねぐら算定法ナベヅル、6,095、マナヅル950、合計7,046。ねぐら入り算定法、ナベヅル4,210、マナヅル1,000、合計5,210。昭和58年～59年越冬期、ねぐら算定法マナヅル……。以下、説明文、表をみてわかるとおり、……なければならない。表おわり。

正誤表から・・・・・・その7

語句	誤読	正しい読み	語句	誤読	正しい読み
風土記	フウドキ	フドキ	大著	ダイチョ	タイチョ
相生	アイショウ	ソウショウ	四六判	ヨンロクバン	シロクバン
中樞	チュウスイ	チュウスウ	漁家	リョウカ	ギョカ
上意下達	ジョウゲダツ	ジョウゲツ	羨み	ネタミ	ウラヤミ
造作	ゾウサ	ゾウサク	四分五裂	シブゴレツ	シブゴレツ
温石	オンセキ	オンジャク	形而上	ケイシジョウ	ケイジジョウ
夜着	ヤギ	ヨギ	嘲られた	アナドラレタ	アザケラレタ

「地名」調査の例

地名は簡単にわかると思っていても、いざ調査するとなかなか調べがつかない事があります。の例は、ICCBの調査資料をあたり尽くしても判明しなかった例を書いて頂きました。

・・・10時半、尾瀬ヶ原の東のはじ、見晴というところに着く。

(東海林さだお著『笑いのモツ煮こみ』より)

1. 「コンサイス日本地名事典」で調べる。ミハル、ミハラシで見つからず、漢字索引で見の画で調べるがなし。
2. 「現代日本地名よみかた大辞典」で画数で調べると、「ミハラシ」と「ミハル」があるが肝心の尾瀬の周りではなし。
3. 次に尾瀬が何県かを「コンサイス日本地名事典」で調べ、群馬、福島、新潟の三県にまたがっている事がわかる。
4. 「角川日本地名大辞典」で群馬、福島、新潟のミハル、ミハラシを引いてみるがなし。
5. 「分県地図」で福島県全図の中に尾瀬、「見晴」を見つけ、檜枝岐村で調べるがなし。
6. ICCBでは調査つかず、紀伊國屋書店で「尾瀬のガイドマップ」を見てもらって、「ミハラシ」という読みであることがわかった。(河野記)

地名の読み方は、普通、ここに上げられた辞典で調査すれば、殆ど解決するものです。しかし、場合によっては調査のつかない地名も出てきます。今回は、ガイドマップを利用してようやく解決することができた例でした。

校正基準について・・・その2

録音の順序

録音製作係 清水賢造

録音の順序は次の通りです。

1. 著(編・訳)者名、/(シリーズ名)、書名、(副書名)、/
*シリーズ名や副書名の区別は判断しにくい場合がある。読み方は館の目録カードに合わせる。
*著(編・訳)者名・シリーズ名・副書名は1巻A面の最初と、テープ最終巻の末尾のみ録音する。
2. /テープ第1巻、A面、/
3. /製作館(グループ名)、/製作年月日、/音声訳者・校正者・(編集者名)、/
4. /原本奥付、/著者略歴(紹介)・訳者略歴(紹介)、/録音図書凡例、/目次、/
*いずれも、「原本奥付おわり」「著者略歴おわり」……「目次おわり」が必要。
*定価〇〇円、本体〇〇円。
5. /まえがき、/序文、/ (本文へ入る)
6. <A面の終わり方>
*「A面をおわります。このままの位置でB面へお回してください。」
*編集しないテープの場合、A面の終わりと、B面の始まりがあっているかを確かめる。
*カセット録音の場合、A面最後のギリギリまで録音すると、コピー出来ない。1分位の空白が必要。
7. <B面のはじめ方>
*〇〇(書名)、テープ〇巻、〇面、第〇章、第〇節、〇〇〇、〇〇ページの続きです。
*以下、各巻の梓アナはA面もB面もこれと同じ要領になる。
~~~~~の部分、目次の項目や読み始めるところによって変わるので注意。
8. <B面の終わり>  
\*「テープ第〇巻へ続きます。」
9. <2巻目以降のA面はじめ>  
\*「7.」と同じ要領。
10. /あとがき/解説・参考資料・年表・索引・著者の作品紹介(原本の掲載順に)/など
11. <テープ最終巻の末尾>(『レコーディング・マニュアル』参照)

以上が、『レコーディング・マニュアル』にそった録音順序です。「7.」の梓アナについては、この通りにならない場合がありますが、予め決められた「処理」通りに読まれているかもチェックする必要があります。  
(つづく)

## どなたか音訳していただけますか？

下記の図書は利用者から依頼されている図書ですが、現在読み手が決まっていない図書です。音訳してもよいと思われるグループや個人の方がありましたら、清水までご連絡ください。はじめのグループも歓迎します。(連絡先 盲人情報文化センター 03-441-0015 内線 72、清水)

### <利用者からの製作依頼図書>

『折伏教典』／創価学会教学部編  
『あん摩・マッサージ・指圧・鍼・灸・柔道整復受験  
ポイントマスター基礎科目編』／医道の日本社編  
『あん摩・マッサージ・指圧・鍼・灸 受験ポイントマスター  
専門科目編』／医道の日本社編  
『昆虫の行動』／高橋正三著  
『無功德』44～47／承福寺編

### <利用者からの製作依頼図書>

『点字の手引』／日盲連点字図書館編  
『Lisp/MS-DOS版エキスパートシステム構築法』  
／高橋邦芳著  
『本棚マジック真如苑』／ひろた みを著  
『好景 菊岡素子句集』／菊岡素子著  
『地方上級国家公務員合格受験講座』  
／清水睦[ほか]著

### 音訳を引き受けて頂いた図書とグループ名

『慶弔詩歌集』／日本詩吟学院岳風会編 →「えくてもあ」(完成)  
『朗詠集』／日本詩吟学院岳風会編 →「ICCBリクエストグループ」(完成)  
『佐藤の基礎解析』／佐藤恒雄著 →「グループ84」  
『脚のツボを押せば元気がよみがえる』／高野豊行著 →「ICCBリクエストグループ」  
『スウェーデンの社会保障』／社会保障研究所編 →「ICCBリクエストグループ」

編集後記 「ろくおん通信」を新しいスタッフで再発行し始めて一年余が経ちましたが、1990年最後の月に30号を発行でき感慨一入です。この間に館内は無論、各地の図書館や録音図書製作グループに読者が拡がり、配布数は1年前の200部から600部(1990年12月現在)までになりました。毎号、音声化の体験をもとに種々の問題提起や処理上の提案など情報交換の場にしてきました。来年にはマニュアル改訂版が発行されますが、増々技術は多様化し進歩を要求されるようです。来年もお互いに助け合い、励まし合ってより正確で良質なテープを作るよう頑張りましょう。

良い御年を!!

(工藤)